

研究テーマ

工芸素材を利用した製品デザインのデータ作成

目的・概要

試作した質感データを具体的なデザイン開発の描画に応用し、データとの評価と改善を目的にプロジェクトを開始した。産地視察で得られた素材や技術などの知識を活かし、若い世代の目線で生活シーンを見つめ、そこに必要な伝統工芸品のイメージを構築し、新たな商品企画とデザインを試みた。視察やヒアリング、書籍など一連の調査からテーマを設定しアイデア展開へと進み、多様なアイデアから発展性や使い勝手などを考慮し、ラフモデルでの検討と改良を加えるとともに、石川県工業試験場が開発した伝統工芸デザイン支援システムを使用し、データの保存方法やテクスチャーおよびシーンのシミュレーションなどの実験を通じて、デザイン検討とシステム評価を行いコンピュータグラフィックス(以下CG)のデータを作成した。完成した試作は評価会を設けたり、展示会における一般からの意見を求めたりして、商品化に向けて発展させる取り組みを実施した。

期間

2005年7月から2008年3月

委託者

石川県産業創出支援機構(文部科学省都市エリア産学官連携促進事業研究)

研究体制

プロジェクト型

担当

工芸科 中川衛 教授
 デザイン科 製品デザイン専攻：村井光謹 教授、村中稔 教授

2005年度 製品デザイン専攻2年：和泉桂、岸野真琴、土井啓聖、中川徹、横関亮太

2006年度 製品デザイン専攻3年：和泉桂、岸野真琴、中川徹

製品デザイン専攻2年：浅井有麻、堂本夏菜、内藤彩佳、中島あゆみ、中村恵美、奈須田友也、林愛子、峰友美、宮本真位、山之内崇

2007年度 製品デザイン専攻4年：和泉桂、岸野真琴、中川徹

製品デザイン専攻3年：堂本夏菜、中島あゆみ、中村恵美

製品デザイン専攻2年：青木緑、大石敏一郎、金谷渉、殿山美里、古木大樹

PROCESS

1.調査・企画

山中漆器、九谷焼、加賀友禅、金沢箔、輪島塗などの伝統工芸品産地の視察により、様々な素材と技術、工芸品の歴史を学んだ。また展示会や書籍、インターネットなどでも情報収集を行い、企画の方針とテーマを検討し、「贈り物にしたい日用品」を進めることにした。

2.アイデア展開

最初のアイデア段階では、人と生活空間における関係や使い方を意識しながら、全ての工芸素材を対象に、アイテムを検討した。その後、多くのアイデアが出された漆を用いた製品を中心にアイデア展開を行い、試作をすることになった。

3.アイデア評価

使用時における道具としての心地よさが感じられるかを評価するため、実寸のペーパーモデルを制作し、機能的にも満足できるまで追求した。この研究では学生が互いにアイデアを共有し、議論した。

4.CGによる表現

形状を作り上げるモデリング作業は3DCGソフトウェアShadeを使用。表面テクスチャーやライティングの設定には、工業試験場の支援システムを利用した。速やかにシミュレーションができ、全体のイメージを把握することやディティールの検討にも効果的であった。

5.試作による検討・評価

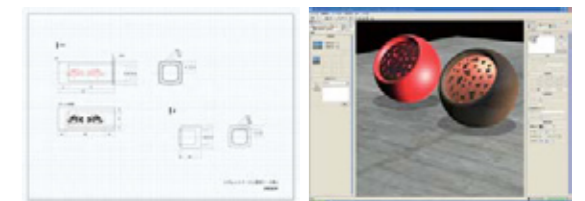
石川県工業試験場のコーディネートと金沢漆器組合の協力を得て、学生が制作した図面を基に13点の試作を行った。学生が互いに評価する一方で、外部の意見を取り入れるための評価会を設けた。



CGデータを見ながらデザイン検討



美大ショップKACOAでの展示風景



試作用図面

テクスチャーの検討画面



試作の評価会(学生が作品の特徴を説明)



「100% design tokyo」での展示風景



試作全体のイメージ

■展示会での発表

金沢美術工芸大学が期間限定で運営する美大ショップの企画展示コーナーに13点の試作を並べて、市民に公開した。デザインした学生が説明員となり、試作の特徴や用途などを伝えるとともに、アンケートによる調査を実施した。展示計画や説明パネル、アンケート用紙などもデザインした。

■デザインコンペティション

試作の名刺立てアイデアを更に発展させた作品が、金沢商品デザインコンペティションでグランプリに選定された。かなざわのみ2007における金沢ファッション産業創造機構セレクト展で、会場の金沢21世紀美術館に展示された。

■東京の国際見本市への出展

デザインコンペでグランプリの名刺立て、CDホルダーなど6点を国際的なインテリアプロダクトのトレードショー「100% design tokyo」に出展した。2007年11月に開催されたこのショーには5日間に85,000人以上の来場者があった。